

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)333771-4649

FAX(03)3229915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 東京労金本店 No.1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

### 〈もくじ〉

#### ■巻頭言

労働運動の現状と「中間幹部」の任務……………	鈴木 賢……………	2
私鉄九七春闘方針案への「私の修正案」……………	山田 宏……………	3
―会社、資本の言うなりになる春闘はまっぴらごめん―		
ベアゼロ、隔年春闘、規制緩和の中で……………	山田 宏……………	6
―「ストなし」春闘に変化の芽ばえも―……………		
「少数」と言われる多数の声を生かせる社会に……………	稲村 守……………	9
―カストロの気概をわれわれのものに(下)―……………		
自民党大会に九産別一共同組織が出席……………		10
「行革」挙党内閣をめざす保守勢力……………		11
現代青年と「われわれ」の責任……………		13
―若者の意識をさぐる―……………		
希望……………	塩屋崎あき江……………	15
読者からのおたより……………		16

「社会通信」本誌の読者をご紹介ください

# 旬刊 社会通信

NO. 661

一九九七年二月一日号

一九九七年二月一日発行  
(毎月一日・二日・二日三回発行)

## 労働運動の現状と「中間幹部」の任務

労働組合の組織率がまた減った。減少傾向に転じたのが一九七六年からだから、これでは二一年連続の低下である。一九九六年六月末の時点で労働省調査によれば日本の労働組合実勢は次のとおりだ。

- 一、全労働者数は五三六七万人。組合員は二四五万一〇〇〇人で、組織率は二三・二％。前年比では組合員数マイナス一六万二〇〇〇人、組織率はマイナス〇・六％。
- 二、ナショナルセンターの組合員数（比率）は、連合七六六万人（六一・五％）―前年マイナス六万七〇〇〇人、全労連八五万九〇〇〇人（六・九％）―前年マイナス二〇〇〇人、全労協二八万一〇〇〇人（一・三％）―前年プラス七〇〇〇人、無所属三六五万人（六・八％）。
- 三、全労働者数に占める各ナショナルセンターの比率は、連合一四・三％、全労連一・六％、全労協〇・五％、無所属組合六・八％（三六五万人）。未組織労働者は七六・八％で四一二二万人。この数字は最近の政党支持の傾向、つまり「支持なし」五〇％超と符節を合わせるがごとくである。
- 四、企業規模別組織比率は日本労働運動のさまざまな事態をさらけ出す。一千人以上の巨大企業（事務所）五八・一％、一〇〇から九九九人が二〇・五％、しかし九九人以下ではなんと一・六％。
- 五、産業別の組織比率は公務労働者六三・四％、電気・ガス・熱供給・水道五三・三％、金融・保険・不動産四四・九％、運輸・通信四一・二％、製造業二八・二％、鉱業二・二％。

六、連合傘下労働組合は五二組合。鷲尾事務局長によれば二〇万以上の数がなければ発言力がないとのことだ。二〇万以上の組合員を擁するのは、自治労一〇二万、自動車総連七八万、電機連合七七万、ゼンセン同盟五六万、生保労連四二万、日教組三七万、ゼンキン連合三二万、情報通信労連二六万、電力総連二五万、金属機械二〇万の一〇組合。一〇万以上は鉄、私鉄（一八万）等八組合。連合の決議方式は株主総会と同じだから、巨大組合の意志が貫徹される。最大の問題は、なぜ組織率の低下かだ。学者・労働評論家の言はともかく、それを一番よく知っているのが、現場労働者だ。「合理化に全面協力でどうして組織がふえるんですか」と。連合は「二千万組織、組織率三〇％」、全労連は「二百万組織」をスローガンに結成された。連合は六万七〇〇〇人、金労連は一〇〇〇人減少した。連合は労資癒着・一体化の道突き進み、全労連は言論は勇ましいが、職場では「これじゃ連合と変わらないじゃない」との実践が珍しくない。現場は連合、全労連に期待してはいない。「資本の論理」に屈しているからだ。

労働組合強化の道は何か。前号の横堀論文を基調に、現場の声を大きくすることだ。中央を現場は支持していない。これはさまざま調査に明らかだ。その中央を支える役割を果たしているのが、支部、分会段階の中間幹部だ。JC等では中間幹部のほとんどが下級職制、しかし旧総評の組合は違う。

労働運動の今後が一番大きな役割を担うのは、現場とともに旧社会民主党支持組合の中間幹部、単組、支部、そして分会の役員の決意である。それを一番よく知っているのも彼らであろう。中央にへつらうのはやめ、現場の声を傾けよ。さらには現場をリードせよ。そして労働組合らしさを追求せよ。それが中間幹部に歴史が課した、今の任務である。（伊勢 太郎）

## 私鉄九七春闘方針案への「私の修正案」

鈴木 賢二

—会社、資本の言うなりになる春闘はまっぴらごめん—

だれから賃金もらってるの？

ある私鉄職場の研修で、会社の講師から「皆さんは誰から給料をいただいていると思っ  
ていますか」という質問が出された。Aさんは「会社からもらっています。Bさんは「駅  
長からもらっていますと答えた。それに対して、講師は言った「それは違っています、お  
客さまの支払った『運賃』から皆さんの給料も支払われているのです。お客さまの支払っ  
た『運賃』の一部が、電車やバス・駅舎改善などの費用に当てられ、もう一部で皆さんの  
賃金を支払っているのです。入ってくるのは『運賃』の収入しかありません。『運賃』を  
支払って、乗車されている、お客さまを大切にすることが結局皆さんの生活の糧になっ  
ているのです。したがって『お客さま』あつての会社であり、お客さまから給料をいただ  
いているのです」と言われました…。

皆、何かおかしいと思いつつも沈黙。

はたして、そうだろうか？

資本家は、生産手段である電車やバスなどの不変資本と呼ばれるものと、これを動かす  
「労働力」可変資本を投入して生産をはじめ、商品を作り出す。私鉄の場合は、輸送とい  
う商品を作り出し、この商品の価格が「運賃」である。商品は本来価値どおり売られるわ  
けだから、この「運賃」の中に、たとえば初乗り一三〇円だったら、一三〇円の中に不変  
資本の分と可変資本である「労働力」の分および、会社の儲けにあたる利潤の分が含まれ  
ているのである。

だからたとえば一三〇円の中身は次のようになる。

電車、バスを買う分（不変資本部分）四〇円。労働者の賃金分（可変資本部分）四〇円。  
会社の利潤分（剰余価値部分）五〇円

会社は儲けなければ生産はしない。電車やバスだけでは、ただ、それだけでは単なる鉄  
クズと同じで一銭の富も生み出さない。電車やバスを動かす労働者が加わって始めて輸送と  
いう生産が行われ、社会的富が生み出される。この労働者の労働だけが剰余価値を生み出す  
唯一の源泉である。労働者の労働以外剰余価値を作り出さない。電車やバスの不変資本は単  
に商品に価値を移すだけで、剰余価値は生み出さない。したがって、再生産の為の生産手段  
の分も、賃金として支払われる部分も、利潤の分も生み出しているのは労働者の労働である。  
結論はこうだ、誰から給料「賃金」をもらっているのか、労働者は自分の労働力で会社  
の儲けも、自分の賃金分も、稼いだしているのだ。

### 部長の話と資本主義の限界

ある部長曰く「K社とS社では一人当たりの生産性が非常に違う。『運賃値上げ申請』  
をする場合K社は生産性を高める努力をしないと運賃値上げ申請は運輸省に認めてもらえ  
ない」など、すなわち運賃値上げ申請の為に、他社に遅れているので合理化をしなければ  
ならないと言うのである。運賃Ⅱ輸送という商品の価格Ⅱたとえば先程の例で言えば一  
三〇円の内訳として……再生産や、新たな設備投資等の分、七〇円……労働者の賃金分、  
二〇円……会社の利潤、四〇円Ⅱ一三〇円ということ、一人当たりの生産性が高いとい  
うことは、稼いだされた総体の中で賃金に当たる部分が少ないということだ。その減った

分、設備投資や会社の利潤が増えているという表れである。会社の設備投資が増大するということは更に高度な機械などを導入して合理化を計るということである。

資本主義が高度に発達すると、設備投資などの増大によって不変資本の部分の相対的増大が起る反面、機械導入、人減らし合理化などにより、剰余価値を生み出す可変資本部分の相対的減少が起る。これは不可避であり、利潤率の低下をもたらす。このことを資本の有機的構成の高度化と呼ぶ。

独占資本は、この利潤率の低下傾向を打破し、これを埋め合わせるためにとめどもない競争戦へと突入していく。自分の拡大再生産を保障する、最大利潤を求めて量的にも質的にも、すなわち生産の拡大、技術のさらなる向上、生産性の向上、海外生産などである。また、その過程で、資本の集中集積が急速に進む。一層激しい競争で中小資本の没落、一切の富は少数者「独占」の手に移っていく過程でもある。

このことはまた、労働の社会化の巨大な課程であり、生産のますますの社会化、世界化の過程でもある。そして、資本主義的所有、生産手段の私的所有と労働の社会化による激しい矛盾の表れ。すなわち、社会主義の物質的基盤を整えていく過程でもある。私達がこの競争戦に巻き込まれることは自からと、自からの子供たちの身を削っていくことになる。したがって、安易に「企業基盤を強化することが必要」などと会社と酒を飲んだりせずに、いろいろ知恵をしぼって資本と闘って行くことが自からを鍛え、自からを守っていくことになるのである。困った時は会社と相談するのではなく、仲間同士で話し合えば必ず良い知恵が出るものだ。

#### 情勢をめぐる若干の傾向

情勢は方針の枕詞ではない、と言われて久しいが実際は情勢は情勢、方針は方針と切り離されているのが現状ではないだろうか。「情勢」を明確に把握すれば、その情勢をどう切り開いていくかという自ずからの方針となって表れる筈だ。切れ離されている所から主観論が生まれる。

……情勢だが、～(そうできないから)……こうやる

……は正しいが、～(そうできないので)……当面こうやる

……理論は正しいが、～(現実には厳しいので)……こうやる

など情勢に対して方針、実践は別の物になっているのではないか。それでは情勢がわかったことにはならない。たとえば相手がナイフを突き付け「殺すぞ」と言った場合あらゆる知恵を出してどんなことをしても生き延びていく方策を自分の頭や体で考えだして実践していくのではないか。そう考えたとやはり、情勢が他人事や、人から言われたから、他での出来事で自分には関係の薄いことになっているのではないか。もう一度情勢と方針について考えてみようではないか。

#### 楽天的に、そして本来の民主主義を

反面、情勢を観念論的にとらえて「心情」や「心」の問題に矮小化してとらえる傾向がなからうか。役員や、労働者一人一人は個人として見れば皆良い人だが、しかし現実の運動はどんどん悪くなる一方である。

「社会的存在が社会的意識を規定する」という言葉があるが、労働組合の役員がどんなに人間的に良い人であったとしても「組織」全体で方針が決定されていく、その人の「良心」や「義理・人情」「人間関係」で労働運動を、あるいは組織を考えるのは間違っているのではないか。最近、「まさか、あの人が、あんな人ではなかった」「信頼していたのに裏切られた」などの話を聞く機会が多い。労働組合といえどもこの社会の社会的存在であ

りその地位や立場によって考えも規制されるのが当然である。

私がよく「修正案」を出して戦っていくべきだと言うと、「良心的幹部」を追いやってよいのか、とか、そこまで追いやらずに意見を上部に反映してもらったほうがいい、とか幹部に対する意地悪だ、などの言葉が多くの人から返ってくるが、はたして本当にそうだろうか。「人情・心情・感情」に頼るほうがよっぽど保守的であり非民主的だと思う。労働組合も社会的組織だから「社会的な力」「組織された力」で民主的に変えていく以外にない。良心的幹部の心情に頼るのではなく、自からの見解をはっきりさせ、談合などに頼るのではなく、分会決議や組合修正案などをもって、堂々と大衆的に変えていくことが今求められているのである、それが本来の民主主義というものだ。

そして、情勢を主観的、固定的にみるのではなく、国際的競争激化、海外生産など、資本主義が高度に発達するということはまた、矛盾の激化は避けられず、反面先程も述べたとおり社会主義の物質的基盤の拡大につながっていく。いついかなる事態が表れるかわからない。例えば、明日、世界的な規模で証券恐慌のようなことが起こるかもしれないではないか。したがって、厳しい、厳しいとばかり現局面をとらえるのではなく、敵の弱さも十分知って、ある意味では楽天的に、この情勢の中で、どうすれば主体を発展させることができるのか考えるのもまた楽しいではないか。

#### 私鉄総連春闘方針案に反対する考え

一、要求額を昨年（二万円）より二千元下げ一万八千円にしたことは、単に要求額の問題ではなく春闘を闘う構えの後退であり、承認しがたい。消費税5%、医療費、学費など、その他諸物価値上がりが予定される来年（朝日新聞でも年間一四万円の負担増）なせ要求をさげるのか理解に苦しむ。私鉄の要求が突出しているとか、「連合」が要求を下げると言うなら連合に入っている意味がない。「連合」に入っていて良かったことは今まで何もなかった。「連合」からの圧力があるというなら、この際加盟当初から問題の多かった「連合」から抜け、新たに資本と闘う「共闘組織」を模索すべきである。

二、「交渉重視」という言葉の裏に、ストライキを事実的に放棄する方針となっている。文章には「ストライキはやらないと書いていない」ではないかと言うが、私鉄新聞の委員長や書記長の答弁を見る限り「新しい時代」「改革」の私鉄方針にストライキは合わない」と読める。実質的に会社・資本の言うなりになる春闘は、まっぴらごめんだ。「不満な場合はストライキで闘う」を明確に書くべきである。

三、「春闘」は賃上げだけではなく、税金や社会福祉、規制緩和反対など政策課題と結びつけて闘ってきたのが、私鉄春闘の歴史であった。しかし、本年の方針では「賃闘」になっている。「金」だけの闘いに狭めている。これでは、組織労働者のエゴと受け取られてもしかたがない。組織をもたない人々や、お年寄りの要求も含め、たとえば、老人医療費の値上げ反対や介護保険制度については国の負担を明確にさせる、又、女子の労働に対する保護規定や解雇制限法などの政策課題、要求とかみあわせ闘うべきである。

以上三点の欠落した私鉄九七春闘方針には反対である。  
たとえば「修正（案）」として

一、要求額は昨年の「二万円」と来年出費が予想される分も含め最低でも一万円上乗せせて「三万円」とする。

二、「回答に不満な場合はストライキで闘います」を明記する。

三、諸政策課題（反対理由の中で書いた）と結合して九七春闘を国民春闘と位置づけて闘う。

## ベアゼロ、隔年春闘、規制緩和の中で 山田 宏二

—「ストなし」春闘に変化の芽ばえも—

### 「苦難」(九七) 春闘

政府・財界それにマスコミも加わった行革・規制緩和の大喝のなかで九七春闘は文字通り、苦難のスタートを切った。

一月早々連合系各産別の恒例の旗開き集会では、日経連のベアゼロ発言や労働分野の規制緩和方針などを反映してか、珍しく芦田連合会長や各産別委員長も、きびしく日経連方針を批判する発言が飛び出していた。

連合の芦田会長は、景気回復を確実なものにするためにも「適正な賃上げと消費マインドの好転に向けた積極的な取りくみが不可欠だ」と強調する一方、日経連など経営側が人件費コストの抑制による国際競争力の維持・強化を主張していることに対して、「コスト削減を賃金抑制により行う選択は、わが国経済と国民生活の健全な発展を損なう縮小均衡の道にはかならない」と反論した。

金属労協(JC)の得本議長も、「円高の修正局面を活用した賃上げと、二兆円の特別減税の継続が日本経済を成長軌道に乗せていくためにも重要だ」と強調した。

景気が回復局面にあるのに、賃金は遅れ、労働分配率は低下している。労働者の春闘への関心は高く、賃上げに対する期待も大きい。

連合が実施した「九六年生活アンケート調査」(二年ごと)に実施、今回は九六年七月に約二万人の回答をえた)によると、現行の賃金に対する評価は、「非常に不満である」が二四・四%、「やや不満がある」の四四・七%を合わせると「不満派」は六九・一%とほぼ七割に達する。

「十分満足している」二・四%、「まあ満足している」二六・四%の合計は二八・八%と三割弱だった。

二年前(九四年)と比較すると、「不満派」が六・三ポイント減り「満足派」が六・四ポイント上昇したものの、不満が多いことには変わりはない。

労働組合に強く望む取りくみで「賃金・一時金などの賃金の引き上げ」六二・二%がトップになっている。

労働時間については、時間外労働の平均が二〇時間で、前回より二・二時間のびたことから「収入減でも自由時間を」との回答が六〇・四%と、前回のほぼ倍増となったことは健康に不安をもつ労働者が増大していることを示している。

### 要求は〇・一%のマイナス

ところが方針・要求基準案作成段階の議論をみると、景気が回復基調に乗り、円高から一挙に円安に振れたにもかかわらず、要求を前年より引き上げる(一万三〇〇〇円を一万四〇〇〇円)意見は軒並み押さえられ、連合の要求基準案は昨年と同じ一万三〇〇〇円中心となった。これは要求調整段階で、JCが連合基準より低い要求では、連合要求が宙に浮いてしまう、という反省から、JC要求と揃えるために、連合は一万三〇〇〇円と昨年同額とし、JCは一〇〇〇円引き上げて、三年ぶりに足並みを揃えることになった。

連合は平均賃上げについては額要求として、率は表に出さないことを申し合わせてきたが、それでは前年との対比が見えにくいため、連合平均ベースは発表している。平均ベ-

スは二九万四〇〇円だから、一万三〇〇〇円は四・四一%となる。その構成は定昇五九〇〇円、生活上分七一〇〇円だ。

ところが九六年要求の構成は、定昇五七〇〇円、向上分七三〇〇円（ベースは二八万六〇〇〇円、四・五四%）であり、生活上分要求を二〇〇円下げている。率も四・五四%から四・四一%へ〇・一ポイントマイナスとなっている。なぜ下げたのか、これでは経営側につけこまれる弱点を持つ要求といわざるをえない。

さらに連合の要求は個別賃金要求を第一にかかけ、高卒、三五才勤統一七年の基準労働者の賃金改定分、いわゆる純ベアを七五〇〇円として、三二万三〇〇円へ引き上げる、としているが、昨年の個別賃金要求は純ベア七八〇〇円、三二万一四〇〇円だったから、こゝでも純ベア分でマイナス三〇〇円要求に引き下げられている。

これでは九六年過年度物価上昇分が〇・三%（九五年は〇）、これに九七年四月から消費税が五%に引き上げられ、特別減税二兆円も廃止され、国民生活負担の増大が確実視されている状況下では、連合傘下労働者の賃上げへの強い期待も幻滅させられ、八九年と同じ大チョンボ春闘になる可能性なしとしない。

八九年闘は絶好の経済条件のもと追い風春闘と評されたが、民間連合が要求基準を前年の七・八%ゾーンから、六・八%ゾーンに幅を広げ、前年マイナスの六%要求を容認したため、ハドメの前年プラス一%にとどかず、〇・七四%のプラスで終わった。しかも八九年に消費税三%が導入され、その年の実質可処分所得はマイナスとなるチョンボ春闘だった。

この二の舞を踏まないためにも、過年度物価上昇が〇・三%、それに消費税引き上げ特別減税二兆円廃止、社会保障切り下げ（医療費値上げ、公約年金改悪）、教育費値上げなどダブルパンチ、トリプルパンチが想定されるのだから、せめて要求案討議にさいしては、前年プラス要求に引き上げる努力が必要だ。

#### 鉄は統一妥結離脱を宣言

JICの要求基準は、連合に合わせるとの水面下の合意通り、一〇〇〇円プラスして一万三〇〇〇円の平均賃上げ要求とした。ベースは三〇万九〇〇円、四・三二%（前年は四・一六%）である。

傘下産別の収益動向は、昨年は春から夏にかけて約一ドル八〇円台の円高で、いまにも産別がつぶれるかのように、大さわざしていたのに、今年は一〇円から一一六円まで円安で、輸出関連産業のJICとしては、もっと大声で労働分配率の引き上げを要求すべきだが、「空洞化」や雇用不安による「展望不透明」をいいたてて、積極的に相場をリードする積極性はみられない。

個別賃金要求は高卒三四才勤統一六年技能職の賃金を一万三〇〇〇円引き上げて三〇万五〇〇〇円とする。

産別では円高ですっかり好調をとりもどした自動車総連が七年ぶりに要求を一〇〇〇円引き上げて一万三〇〇〇円。大手一二組合の平均ベースは二八万七〇〇〇円、内訳はカーブ維持分五七〇〇円（定昇）ベア七三〇〇円。昨年はカーブ維持分原資の確保を先行させて回答を引き出したが、今年もベアと峻別してカーブ維持分を先行確保。そのうえにベア上乘せを狙うが、その配分については賃金体系の改定と（能力主義管理）が交渉の中心となる。

高卒三五才一七年四人所帯の要求基準は二九万三〇〇〇円。一時金は年間五カ月（昨年同月数）。

一時金については昨年残業時間平均三八時間増を反映して、すでに特別一時金として昨

年一二月にトヨタ八万円、本田七万円が支給されている。

自動車が前年比どのくらいプラスとなるかが相場形成の核となる。前年はトヨタが前年同額の八七〇〇円、一・八三%だったが、この程度であれば全体を引っ張る力とはならない。

電機連合は個別賃金要求一本で、三五才高卒技能職四人世帯一万三〇〇〇円以上(定昇分含み、昨年プラス五〇〇円)。昨年は前年プラス三〇〇円、ハドメは達成したものの、率では二・九五%で、三%台乗せはならなかった。今年も自動車とともにリード役だが、主力の半導体が不調のため、自動車のあとに続く形となる。

造船重機はベア七〇〇〇円、定昇六〇〇〇円、計一万三〇〇〇円(前年プラス一〇〇〇円)、一時金は五五万円プラス三・五カ月(昨年比金額部分で二万円増)但し三菱重工は八三万円プラス三・五カ月で、昨年比五万円増と、格差が大きく開き、同一妥結の原則は昨年崩れはじめている。

注目の鉄鋼は、ベアを昨年と同額の三〇〇〇円、定昇は五年ぶりに改定して一〇〇円増の三六〇〇円、計六六〇〇円。ベースは評労三五才一七年二九万四三〇〇円だから二・二四%(前年同率)、一時金は年間三九才二一年標労一五〇万と前年を八万円上回る要求を決定している。

ベア三〇〇〇円は昨年は有額回答を引き出すことに重点があったが、今年は確実に獲得すべきものと強調している。しかし一時金の大幅増要求にあらわれているように、年間総賃金の枠内で評価する考え方が強い。

複数年協定については九八年からの実施を目指しているが、今年は「最悪状況を脱したものの、雇用と生活維持の確保を最優先」と早くも統一妥結離脱を宣言している。

もう一つ注目されるのは公益産業の私鉄だ。要求案は一万八〇〇〇円、六・二%(平均ベース三九・四才、一七年、二九万二〇〇〇円)で、昨年の二万円、七%要求より大きく下回っている。内訳を昨年と比べると

昇給保障分 七九〇〇円、二・七%(九六年は七七〇〇円、二・七%)

物価上昇分 一四〇〇円、〇・五%(一一〇〇円、〇・四%)。CPIの一・四倍方式を改

め、上半期の都小売物価統計と生活実態調査で算出

社会保険増分 一二〇〇円、〇・四%(一七〇〇円、〇・六%)

生活上昇分 七五〇〇円、二・六%(九五〇〇円、三・三%)

にみるように生活上昇分のマイナス二〇〇〇円、〇・七ポイントがマイナス要求の中心のなっている。

これは他産別との要求乖離が財界や日経連の攻撃対象とされるため、これをさげたい、とする現職防衛策だが、中央集団交渉参加組合が減少すると、私鉄春闘も変容してくる。

電力は三〇才一二年、一万二二〇〇円(前年比プラス一三〇〇円)。全電通は三五才一七年定昇別で七八〇〇円、昨年同額要求だが、個別賃金に移行できるかどうか。分割問題に関心が集中している。

化学は合化やゴム労連が一万から一万三〇〇〇円のゾーン要求を検討している。

#### 企業はベアゼロねらう

これらの労働側の要求に対して企業側はいずれもベアゼロを基本に金額交渉よりも、年功賃金つぶしを狙った賃金体系の改定をもつて臨もうとしており、春闘のあり方が大きく変化しようとしていることが、九七春闘の特徴となろう。

賃上げの支払原資は十分に確保されているのだ。連合の内部留保調査は一二業種五〇社



の内部留保は九六年三月、九五年度人件費総額の三三・三％も伸びており、一万三〇〇〇円要求を受け入れても、内部留保の一・八％を取り崩せば足りる。

全労連も主要企業四三九社の内部留保は九二兆二二九億円、三万五〇〇〇円要求を入れても内部留保の二・三％の取り崩しで可能だと分析している。

行革・労働分野の規制緩和攻撃、ベアゼロに、能力・成果主義賃金体系の攻撃に正面から対決して、憲法施行五〇周年にふさわしい九七年春闘を期待したい。

「少数」と言われる多数の声を生かせる社会に 稲村 守

—カストロの気概をわれわれのものに(下)—

〈さわやかな風〉

私の愚にもつかないさわやかな「努力」や力はきわめて小さいものだったが、京都や近畿・全国の仲間の力と支えで、その後京都コンピュータ学院闘争は九四年二月の谷口さん解雇事件での逆転敗訴(職場闘争否定、「不良労働力」排除)と九五年六月の三人解雇事件での京都地労委命令(懲戒解雇はだめだが、「正常」な労資関係がそなわれているので「普通解雇」ならいい)という前代未聞の法廷闘争三連敗・司法の反動化をしのいできた。

そして同時併行的に平和憲法違反・民主主義否定の小選挙区比例代表並立制に反対して、社会党委員長選挙、京都護憲ネットの結成、小選挙区制反対集会、消費税五％反対集会、京都護憲懇談会の結成、本年三月一〇日の新社会党京都府本部結成を行うことができた。また何よりも過ぐる衆議院解散総選挙で、京都六区から京都コンピュータ学院労組副委員長でもある園田裕子さんを新社会党公認候補として擁立し闘うことができたことである。

総選挙の結果はたいへん厳しいものであったが、百万人の初めてでかつ確実な支援を得られた。何よりも九九年統一自治体選の貴重なデータが出来、明確な方針が自らたてられるという大きな成果があった。この準備体制を確立しながら、九八年参院選で新社会党の二％獲得を展望せねばならない(共産党は「かつてない」七二〇万票を得たとはしゃいでいるが、九五夏の参院選では三八〇万票であり、半分は社民党のいたらくによるパブルの票である。まだ日本には一千万の「革新」票があるとも言え、その「配分」がかわったにすぎない。三八〇万なら「手の届かない」票ではない)。

新社会党・園田裕子さんの闘いはたいへんさわやかな風を京都に一斉に吹かせた。

「そのだ裕子さま

今日、我が家の二階で寝ていましたら、とても生き生きとした女性の声でめがさめました。その皆さんの選挙演説で、お話の内容も良くなり、趣旨にも賛同できます。何よりすばらしいのはその熱気です。

早速、池内さんに連絡し、選挙事務所もおしえていただきましたが、私は二十数年来の難病患者で、身体の調子はその日の天候次第、何時おたずねできるかわかりませんから、とりあえず、その皆さんを絶対支持する事をお手紙致します。ガンバッテネ。

少額ですがカンパ同封致します。この金額の意味、おわかりですか？ 私たち患者に知事から送られてくる一年分の療養見舞金の額です。たしか一般からの募金のはずなのに、知事の手紙がなげ付いてくるのか不思議です。毎年考えています。今度、福祉・介護の問題を考える時、その皆さんの視野の中に必ず特定疾患医療の問題もいれて下さい。」(十月一四日 女性)

「紅葉が輝く今日この頃、稲村さんお元気でお過ごしのことと存じます。園田さん、本

当に残念でしたネ。これからも陰ながら応援を続けますので頑張ってください。先日、電話で申し上げましたように、私はA団体で役員をしています。御承知のように私の団体では、五五年体制崩壊以降、政党支持、政治活動については大幅に緩和しましたが、事実上、民主・社民支持中心となっているため、多少問題をかかえているのが実情です。

私は、(新社会党に行かれた) Bさんの見方、考え方をズツと支持してきました。例の「分裂」のときも、『Bさんガンバレ』と秘かに応援に参りました。現在では、公にBさん支持を表明できない程、組織内では難しい状況にあります。

新社会党支持も、現状では「かくれキリシタン」にならざるを得ないのが残念です。しかし、近い将来には表に出るつもりです。そのときは助けて下さいネ。

本日に、一度、ゆっくり話し合います。よろしければ、TEL下さい。(十一月二十一日。選挙中に資料五〇セット送ってほしい、支持上げると電話のあった男性)。

このような支持が連日寄せられた。選挙最終日、手紙を下さった女性が病の床をおして選挙事務所にかけて来られ、昼間たまたま事務所に帰っていた園田候補と対面するという、感激の場面もあった。

新社会党はまだ数は少ないが、額に汗して働く労働者・国民の心を確実に捉え始めている。

### へ一九九七年、闘う原点

九六年も終わりに近い日、国文学史上今世紀最大の発見と言われる、芭蕉自筆本の「奥の細道」が見つけ出された。私は、四十年前に専門家の鑑定で自筆本でないと判定され、自らのものとなった十数年前からも何度も(自筆本とは)違うと鑑定されながらも、阪神淡路大震災後にまた鑑定を受け、今回の「発見」に至ったこの大阪の古本屋さんの粘り強さに感激した。

衆院総選挙では、「社民党王国」とかつて言われた陸奥で、山形・米沢の千葉さんが新社会党の大きな旗をたてて闘われた。米沢は私が受験体制一本やりの高校に反抗して、授業をさぼって社会問題の本をむさぼり読みながら未解放部落を訪問した土地であり、そこで東北唯一の旗を敢然と立てられたことが何よりもうれしかった。

「帝国主義はわれわれを分裂させ、わが国にたいする干渉を正当化するための口実を探しだすことだろう。それを阻止できるのは強い団結だ。しかし、いかなる条件のもとでもつねに全人民の戦争を展開し、革命家が一人でもいるかぎり、武器が一丁でも残っているかぎり、国土の最後の一角に追いこまれてもそれらを守りつづけるための準備を整えていなければならない」(『カストロ、革命を語る』九五年十二月、同文館出版) という「最後の一人になるまで革命を守る」という気概こそ、私たち社会主義者の原点ではないだろうか(一九七八年キューバで開かれた平友祭世界祭典で私たちの通訳をして戴いた富山栄子さんも、今次衆院選を新社会党公認で闘われた)。

## 自民党大会に九産別一共同組織が出席

自民党大会(一月十八日)に電機連合、日教組、自治労、全電通、全通、JR総連、全印刷、国税労組、税関労連の九産産の委員長、副委員長。それに公務員連絡会の事務局長が出席。

電機連合の岩山会長は「今の自民党は生まれ変わった新しい自民党」と述べヤンヤの喝采をまくした。

## 「行革」 拳党内閣をめざす保守勢力

村山（社民）首相が連立政府を投げ出してから丸一年になった。後を受けた橋本自民政権はこの一月十一日から二年目に入った。二十日からは予算国会も始まった。総体としては、オール保守勢力に支えられての一年であった。そのため、橋本内閣は今後も安泰のように見えるが自民党は比較第一党で、安定議席は持っていない。政治情勢はどう動くか各党との関係などから展望してみることしよう。

### 本格的野党不在の国会

橋本政府にとって幸運なことは、事実上対極としての本格的野党が存在しないということである。共産党、新社会党などの野党はあるが勢力が弱く、国会を中心とした政局の動向についての影響は通常的には小さい。第一野党の新進党は、年中内部抗争でガタガタしており、野党をまとめる力は無い。むしろこの党は羽田派に続いて細川派などの流出も考えられるという無様な状況下にある。民主党も何をめざしているのかわからない。

新進党はその「出生」に無理があるため、求心力の欠けた小沢党首を仮に誰かにすげ変えても、党としての安定や定着は考えられない。この党は遅かれ早かれ分解して、悪法の小選挙区制度のめざす一大政権党（自民党）といくつかの小党で構成される政治体制に順次移行することになる。もっとも自民党の幹部を巻き込む「大疑獄」が発生したり、経済の大恐慌などになったりすれば話は別であるが。新進党が大分裂するとすれば①旧公明党が学会の指示によって、「新党公明」（いつでも旧公明党に復活できるように準備されている）に復帰するとき。②旧民社党系が、連合などとの合意・連携によって民主党と合併したとき（社民の一部も合流する）。などが想定される。

新進党は何故あれだけの議席をもちながら「健全」で、いつでも自民党に替わる大政権になれないのか。それは本誌でも度々指摘してきたように、第一には、彼らの理念は「新保守主義」であり、自民党のかつてのタカ派や金権派が野合して新進党の中軸になっていることから自民党より政治体質が悪いといえる。その分だけ政権欲が強いともいえる。そのため選挙の敗北で政権が取れないとなると党はどうでもよくなり、政権に加われそうな場所（党や政治集団に）への移動を考えるようになる。その典型が船田元派の「二十一世紀」であり、羽田派の太陽党である。いろいろと理屈はいろいろ、権力志向である。

### 「小沢神話」の崩壊

第二には、保守系野党といつても議会制民主主義の建て前にある以上、それなりに党内民主主義が新進党にも制度として現政治が存在しなければならぬ。しかし小沢党首とその周辺には党内民主主義が欠けていて、党首や側近といわれるところで党の方針や重要政策が打上げられ（マスコミに）、後で議員団で形式的に論議するということが多いらしい。日常の党運営についても議員の中からいつも不満と批判がマスコミを賑わしている。新進党の前副党首で現衆院副議長の渡部恒三氏が内部からこれを裏付ける文章を発表している。先日発売された月刊の『文藝春秋』二月号に「羽田も小沢も馬鹿をやってくれたよ」と書いている。渡部氏は、羽田孜、小沢一郎、奥田敬和の各氏ら三六人と共に自民党を割って出て新生党を結成し、その後九三年七月の総選挙で自民党一党支配を終らせ細川連立内閣を成立させている。

「今回の羽田孜の離党劇は、新進党の国民的イメージを著しく悪くしたばかりか、羽田

の政治家としての信用を失墜させ、小沢一郎のリーダーシップも失墜させた。皆んなが損して得する人が誰もいないんだから、こんな馬鹿げた喧嘩はなかった」と渡部氏は嘆いている。そして「羽田が党を出るといふのはどう考えても理由がない」と批判し「羽田を利用して党を出て、いずれ自民党に行きたいという者がいっぱいいる。羽田が離党することで、自らの大義名分しようと思っている。羽田は利用されているんだ」という。

小沢党首については党の運営は「機関主義を言っている。しかし、言うこととやることにズレがある」。さらに「総選挙の公約の十八兆円減税にしても、信じられないことだろうが、副党首である私も事前には全く知らなかった」といい、結論としては「いまは自民党を喜ばせる執行部だ。(国民は)これ以上自民党を大きくしたら民主政治はどうなるかとちゃんと分かっている。新進党が新しいリーダーに変わって出直せば、次の政権は取れる」となっている。渡部氏の文章は、保守政党の本質や新進党内の新保守主義イデオロギーや宗教政党と労組政党などの混合体である現状、そこから矛盾が発生していることにはふれていない。いずれにせよ新進党は、自民党や財界からの策略や工作によって自民党一党支配体制づくりの草刈り場となろう。

### 自民党は「不況」と「行革」で失敗する

衆議院各党の現議席数は次のようになっていいる。▽自民党二二九▽新進党一四二▽民主党五二▽共産党二六▽社民党一五▽太陽党一〇▽二世紀四▽さきがけ二▽無所属一〇。自民党と共に橋本内閣の与党になっている社民とさきがけを加えても過半数を六議席多いだけである。共産党を除けばオール保守体制といわれるぐらいの保守化した国会だから橋本内閣はその意味で安泰のように見えるが、これからの具体的政治行政のなかでは利害の対立が表面化してくる。自民内の族議員の復活やこれから審議される予算の問題などですでに表面化している。行革の具体化など内部対立の火種は無数である。

橋本自民党政府にとって頭の痛い大きな問題は、何ととっても不況対策と行革である。「行革」「規制緩和」は今までは財界の言いなりで総論賛成の大合唱であったが、いよいよ各論に入れば、「反対」が次々と出てくる。もともと行革をやりうるのには、ある程度経済が安定しているときである。今の政府には行革を推進するためのお金がないのである。財政赤字だから行革をやるといふのでは、国民各層の不満がストレートに拡大する。不満を抑えるための財政対策がとれないからである。政府や日銀は、ゆるやかな景気回復といっているが、先日来の株の急落は不況の深刻さを示している。消費税の5%への引き上げに対する勤労大衆の不安と不満は予想以上に沈澱し、中小企業の仕事減は相当ひどい。

自民党にとっての最大の問題は、行革を推進すれば、今まで自民党支持の柱であった中小企業者層、公務員、農業関係者などいわゆる中間層へ一番シワ寄せが集中するため、その支持を失う。自民党族議員を先頭に各論反対が大きくなる。次の総選挙はたたかえないということになる。自民党支持の民間大労組の幹部は大丈夫でも、合理化の進む一般組合員からは反発必至である。革新の政治勢力が行革反対の大衆運動を展開すれば、立上る労働組合や地域住民も多くなろう。その気力を引き出せるかである。

そこで、自民党タカ派で財界に迎合する中曽根元首相らが保々連合の「与野党中枢が参画する指令部をつくれ」といい続けているのである。政界の翼賛体制で反対勢力を圧迫し、新保守主義の日本にしようという意図である。憲法さえ改悪しかねないオール保守体制に「スジ金」を入れてゆこうとしている。この動きはマスコミと財界も一体であるだけに軽く見るわけにはゆかない。本格的な大衆運動と大宣伝活動が必要である。(政権研究班)

## 現代青年と「われわれ」の責任

―若者の意識をさぐる―

スウェーデンの若者との対話

ソビエト連邦崩壊の二年ほど前にソ連留学から帰ってきた社青同専従者の報告を聞く機会があった。すでに社会の規律(当時のソ連邦の)はゆるみまくり、聞く話の一つ一つが信じがたいものだったが、その中の一つに、スウェーデンからの留学生との交流の時の一節があった。

スウェーデン 君は本国でバイクを持っているか。

社青同 持っている。

スウェーデン では車は持っているか。

社青同 持っている。

スウェーデン ラジオカセットレコーダーも君の国では、テープの幅そこそこの薄型があるそうだな。それも持っているのか？

社青同 持っている。

スウェーデン スウェーデンのものは、ラジオカセットテープレコーダーも、二倍ぐらいお厚い。私も薄い型のものが欲しい。君は、本国では、私の欲しいものすべてを手に入れていた。いったい何が不満で社会主義運動をやっているのか。

社青同 : 確かにモノは持っているかもしれないけど、住宅や福祉や医療など、まだまだのところがいっぱいあるから：

大略、このような会話だった。

この国の青年の生活は、北欧の青年がうらやむほどの水準に達していたわけである。生存の不安定性はあるにしても、大抵のモノに手が届く、少し収入が不足していても、金余りで困っている金融機関は簡単に信用供与してくれるから、とりあえず買ってしまう。欲しいモノを与えてくれる社会を無理して変えようとしていたのではないか？ スウェーデンの青年は核心について本音を言えと迫っていたように、今にしてみれば、思えるのである。

ジエネレーション・ギャップ

もう一つ、思いがけず現代青年を観察する機会があった。

大学で脳神経の情報伝達や遺伝子関係の勉強をしていた甥が卒論提出のあと「燃え尽き症候群」のようになって、不登校となり、担当助教授ともめて合格していたその学校の大学院進学をとりやめ、別の学校の大学院を受験するため、我が家の屋根裏にころがりこんできた。毎夜、あれこれと話を聞かせてもらい、生活感覚の落差をつくづく感じてしまった。

大学生活の中で炊飯といったら探検部でキャンプをした時ぐらいで、下宿には炊飯器というものさえ持っていない。夕食は、コンビニエンスストアを変えながら、同じ味を避け、電子レンジで温めて口に入れる。残った容器はゴミとして捨てて終わり。あとかたづけも簡単で、作る時間も労力も不要。買って、消費して、捨てるだけ。研究に時間はとられることはあっても、生活に時間はとらせない。

ある時、探検部で瀬戸内海の無人島に行ったところ、そこには、水洗トイレがあったと言う。何もかも、至れり尽くせりで用意してあって、これでは、探検も探検ゴッコにおとしめられてしまっただろう。

しかし、こんな環境を整えたのはほかならぬ、彼の親の世代なのである。「カイゼン」運動は、企業内はもちろんのこと、この社会の隅々にまで手を伸ばし、「アソビ」や「ス

キ間」や「リスク」というものをとことん詰めてしまった。その一方で、規則づくめ、数値管理の教育が、ふだんはおとなしいバック詰めの子供を日々生産している。

居候では窮屈だろうからと、洗いや洗濯物のとりこみ等、仕事を与えると「No」とは言わずにたんだんとこなす。しかし、それで別に嬉しいわけでもなさそう。雑用はなにこしたことはないが、それで、おじさん達とまずくなるのも困る。こんな従順な青年が、よく助教とやりあったなと思うが一つ拒否したことがある。ねぎの小口切りを教えた時、これで「これから自炊する時に役立つだろう」と言ったら、「自炊はしないから、たぶんねぎはきざまない」と返事をした。それから、ねぎが出てくると「ねぎきざみ職人」はいつもねぎきざみを拒否したことはなかったが、これからは自分で作った食事に自分のきざんだねぎを添えることはないと言ったのである。

ねぎぐらいでは、変わらないのかも知れないと、自家製水ギョーザの作り方を教えた時も、教えたとおりにたんだんと仕事をするが、これもまた、これから作ることにならない技術の伝承に終わった。

時折、洋書をひもといっているのを見ると、辞書かわりに電子辞書で検索している。電子辞書は二つ持っていて、一つは遅いので使っていないそう。一応第二志望の医科学系大学院に合格した時、全国に散らばった友人にその報告をするのに、我が家のワープロから、大学のコンピューターに侵入して、アツという間にメールを送ってしまったのには、びつくりした。我が家のワープロで、そんなことまでできてしまうとは……。

私にとってワープロは、郵便料の節約のため、文章の枚数をおこす機械でしかない。通信機能も、慣れないために、なかなか使えない。「ワープロもまともに使いこなせないおっさん」になっている自分を発見し、ジェネレーションギャップというものを、こちら側から感じてしまった。

#### 「ゴーマニズム宣言」そしてオウム

彼の持っている本といえば、専門書他にまんの「ゴーマニズム宣言」があった。

このまんがだけは全部そろえてある。面白いから読んでみると言うので、読み始めた。おそろしく、言葉の多いまんがなので時間がかかる。そして、世の中の様々な問題について、作者小林よしのりが「ゴーマンかましてよかですか」と前置きした後、切り捨ててゆく手法で、気分がすつきりするというように仕立ててある。作者の下には、全国から「××〇〇を、おこつてやって下さい」という手紙が届き、それを題材に、まんがを書くという形だから、種が尽きることがない。このまんがが、全国で何百万部も売れているのである。

基調としては、彼は天皇に敬語を使うぐらいだから右翼である。資本主義の現状に不満を持ち、官僚も政治家も教師も批判し尽くしている。葉書エイズもとりにくんでいる。

そして、親にも教師にも「ノー」と言えない青年が、ここで、このまんがの世界の中で不平不満のうつぼとした心情を爆発させている。ほとんど、何から何まで、作者はとりあげている。したがって、これは一つの世界観を与える宗教と化しているまんがなのである。

甥は、オウムには入信しなかったが、この「ゴーマニズム宣言」に入信したのも同然となっている。青年は、現代社会に何の不満も持っていないのではない。だが、我々の呼びかけはヒットしていかないのだ。

現代青年は、モノについては、不足を訴えていない。むしろ満足している。しかし、そのモノをあふれさせるために詰めてしまった人間関係のすき間が、彼らに心の渴きを感じさせている。青年が宗教へととりこまれてゆく現状は、その証明であるかのようでもある。我々は青年の求めるモノではない何かを提供しているのだろうか？

我々中高年は革新的であるのに、青年が保守化しているだけだという問題の立て方からは、青年のかかえる問題にアプローチすることはできない。そのような態度は、青年を突き離すだけに終わってしまうだろう。

我々中高年の主張や行動態度の中に、何か問題があったから、現代青年がこのような形を現しているのだ。青年の問題は、その青年をつくりあげてきた中高年の問題なのである。

### ゴルフプレイとゴルフ場問題

九四年の賃金アンケート作成にあたって、ある先輩活動家が、きちんと家計簿をつけてみたところ、月の支出が一〇〇万円を超えていたという。収入は共稼ぎで八〇万円だから二〇万円の賃金要求ということになった。しかし、この二〇万円の賃金要求は、本当にゆずれない要求になっているのかと問うと、あとずさりし始めるようなものであった。

三人の子供の家庭教師や塾、習いごとまた、学資保険などにもずいぶんとコストをかけている。週末の買い出しで、どっさり買った食料品を、冷蔵庫に詰めこむ際、古いものをゴミに出す。こんな消費生活を、人間らしいくらしと呼ぶのだろうかと思った。

別の活動家は、こちらも二馬力で、何と淡路島に別荘を所有していると言う。自宅がマンションだから、庭が欲しかったのかもしれないが、しかし、と考えてしまう。

これだけではない。連合路線に反対している活動家がゴルフに興じるようになっていのである。全労協はゴルフを通じて労組幹部を連合へとまとめあげていっただけに、我々はゴルフに対して自制力を持っているものだと思っていたが、もはや解禁となっていた。いったい、ゴルフプレイに満足するプロレタリアと、ゴルフ場問題を告発するブチブチの、どちらが社会的な活動家と言えるのであろうか？

(播磨 宏)

## 希 望 塩屋崎あき江

夜来の 凜とした冷風がみなぎり

冴え冴えとした 庭先に佇つ

尖つて天を突く 裸木の

枝の先に 明星が煌いて

いづれにも

凜と 冬が定まって

明けきらぬ夜が 淡く濃く

たゆとうている

ずっしりと重い

闇の色に 彩られて歴史が

軋みながら

見どころを深めている

かすかな風に 雪片が舞い落ち

微動だにしない山が

朝の光を 白くとりこむ

せり、なすな、ごぎよう

はこべら、ほとけのざ

すずな、すずしろ 春の七草

生命があるとも 見えぬ

霜枯れの庭の隅で

ひたむきに

春が わずかにほころぶ

生命の限り

精いっぱい生きる想いが

貫かれる

凍てつく

厳寒の冬の夜から 朝への

自然の法則の中で

蒼穹はひろがり

昂は 胸に 煌めく

## ◇ 読者からのおたより ◇

さらにながれば ゆるぎなき 選択もあり 春がすみ。「社会通信」の記事に励まされる  
ことが多くなりました。ますますのご活躍を。  
(松江・浜崎 忠晃)

政治をよくするため勉強中 政治はいまだに信頼されるにいたっていません。低賃金の  
で宅配便のハンドルを握りながら「支配者どもよ、国民をなめるんじゃねえ」と恨み節を  
歌っております。立派な政治を目指して新社会党とともに勉強中です。  
(岡山・H)

「小さき旗上げ」 昨年は心ある皆さんによって、新社会党の「小さき旗上げ」(堺利彦)  
をすることができました。五年、十年、二十年かけて必ず大きく育てなくてはならないと  
考えております。不戦・非武装の誓いである平和憲法は、いま制定五十周年にして最大の  
危機を迎えています。この改憲を阻止するために最善をつくさねばと、決意を新たに  
します。  
(東京・原 野人)

新社会党に入党 昨年九月、社民党をやめ新社会党へ入党しました。一からの出直して苦  
労しておりますが、やりがいを感じております。  
(宮城・N)

ふるさと ふるさとに帰って来てやがて一年 戻ったふるさとは 四季とりどりの花に  
彩られた公園も 小鳥たちがさえずる林もなく かわれたベンチが雨や風にたたく足音  
となつて町のあちこちに点在し 若い時代の汗が染み込んだ操車場のあとには ローマの  
遺跡コロッセオに見えるサッカー場が聳え 歴史の重みがないだけに権威の押しつけが見  
えかくれする だけどここには懐かしい仲間がいる。  
(佐賀・稲田 芳朗)

さらにたたかう 二五年働いた職場がなくなったり、社会党をつぶされたり、ひどい年で  
したね。でもみんなよくがんばった一年でもありました。今年こそ！  
(千葉・K)

一歩前進 NRU(国労)の仲間の奮闘に学び一歩も二歩も前に進む。  
(札幌・M)

新たな経験を次の飛躍に 昨年は私にとつてたいへんめまぐるしく新たな経験をさせてい  
ただいた年でした。在宅介護ネットワーク、朝鮮学校を支える会の取り組みに加えて、三  
月のパートフォーラム、六月の働く女性の交流集会、八月の女性解放講座、十月のILLO  
訪問、十一月のコミユニティ・ユニオン全国集会の受け入れ、十二月のりんくう仮設労働  
調査。やりたいことに飛び込んでいった年だったと思います。

その基本は、私自身がいかにか私らしく生きていけるかであり、それは女性として生きて  
いく上での葛藤、被災地兵庫の問題を考えることでもありました。今年は、その基礎に立  
つてもう少し掘り下げて自分を考える年にしたい。  
(神戸・宇野 陽子)

鴻鵠の志 昨年は職場が変わり、仕事に追いかけられどうしの一年でした。今年は家のこ  
と、仕事、運動とフル回転の一年になりそう。鴻鵠の志を忘れずに。  
(山形・和夫)

さらにながれば 的確な情勢、課題、提起に感謝しています。当地鹿児島もある組合を中  
心に新社会党を発足させ、脆弱ながら意思統一を大切に動き出しました。(鹿児島・A)  
牛の頑固さで たとえ歩みは牛歩でも 牛の涎(よだれ)の途切れることはなく かつて  
牛の頑固さで 今年も進もオー  
(大阪・N)

逃げるな 地域組織も空中分解しようとしていますが、自分たち一人ひとりが逃げないで  
ガンバルことがやっぱり大事。  
(北海道・S)

たたかいから十年 不当な差別・選別を受けて十年経過。一日も早く、納得できる解決に  
向けて団員・家族一丸となって闘いつづける覚悟です。  
(全国の国労闘争団より)